

「仲田光成・森田子龍」展覧会
- 書の美に見る豊岡の巨匠・二人の先駆者 について

伝統かな書の巨匠・仲田光成と前衛書の巨匠・森田子龍という豊岡市が生んだ日本を代表する二大書家の功績を全市に広く周知し、地域の誇りを醸成するとともに、市が所蔵する貴重な美術コレクションの公開を目的に開催する。

本展では、作風の異なる二人の巨匠の作品を通して、新たな書の美意識や二人に共通する高い精神性を紹介する。

1. 会 期

(1) 平成20年7月5日(土)～8月24日(日)

(2) 開館時間：午前9時～午後5時

但し7月5日のみ午後1時～午後5時

(3) 休館日：この展覧会会期中は無休

2. 会 場

兵庫県立円山川公苑美術館（豊岡市小島1163）

3. 観覧料

大人200円 小・中学生100円（ココロンカード利用者は無料）

4. 主 催

豊岡市、豊岡市教育委員会、兵庫県立円山川公苑

5. 内 容

豊岡市及び兵庫県立円山川公苑に寄贈された二人の作品の中から代表作品45点を展示し展覧会を開催する。

豊岡市所蔵品分

仲田光成（平成14年度寄贈）250点中から 26点出品

森田子龍（平成11年度寄贈）59点中から 17点出品

円山川公苑所蔵品分

森田子龍（平成14年度寄贈）2点中から 2点出品

6. 関連事業 記念講演会

(1) 日 時 平成20年7月5日(土) 午後2時～

(2) 場 所 心温まる宿「ひだまり」1階多目的ホール(円山川公苑北隣)

(3) 演 題 「書の美に見る豊岡の巨匠・二人の先駆者」

(4) 講 師 田 宮 文 平 氏（美術評論家）・・・本展監修者

7. その他

- (1) オープニング式典 開会日(7/5)にテープカットを行う
- (2) 無料観覧券の配布 6月20日(金)~
1人2枚限り 先着500名
配布場所 文化振興課・各支所内教育分室
- (3) 講演会用入場整理券の配布 6月20日(金)~
1人2枚限り 先着200名
配布場所 文化振興課・各支所内教育分室
- (4) 無料送迎バスの運行 講演会にあわせ市マイクロバス(定員25人)を運行(市役所本庁舎発12:30、円山川公苑発16:00) 文化振興課に申込みが必要

【参 考】

1. 田宮文平氏について

(1) 経 歴

1937年、東京都生まれ。書評論の第一人者。千葉県美術館資料審査委員、大東文化大学非常勤講師。

(2) 主な著書

『「現代の書」の検証』(芸術新聞社)、『昭和二桁世代/現代書家の素顔』(全日本美術新聞社)ほか。仲田光成・森田子龍を『「現代の書」の検証2』において紹介している。

2. 仲田光成について

(1) 略 歴

1899年豊岡市竹野町に生まれる。近代仮名書道の第一人者である尾上柴舟おのえさいしゅうの高弟であり、若くして古典を究め、鋭い線条による空間構成で独自の大字仮名を確立した。また、平安古筆を基礎に、現在の美意識で表現した典雅な細字作品においても、「仲田流」と称され一時代を画した。2003年7月、満104歳で逝去。

3. 森田子龍について

(1) 略 歴

1912年豊岡市に生まれる。1932年頃より制作を始め、1937年、上田桑鳩そうきゅうの知遇を得て上京。書の啓発普及、革新を目指し、「墨美」、「墨人」といった書雑誌を発刊、さらに同土を募り「墨人会」を結成、書壇に新しい風を吹き込んだ。表面的な字形に捕らわれない生命感にとんだ「墨象」という新しい世界を切り開いたが、そ

の根底には、書の根源的な伝統を求めて深く古典を学び、王義之^{おうぎし}、
大燈^{だいてう}国師らから受け継いだ高い精神力があったと言える。1998年
12月、87歳で逝去。

4. 前衛書とは

伝統的な書概念を離れて、墨色・筆致・余白などによる純粋な造
形美を追求する書道。第二次大戦後に興り、昭和30年代以降に盛ん
になった。墨象（ぼくしょう）とも言う。